

リスクモンスタ-倒産確率
資本金額別・業種別倒産確率 2019年度(2019/4~2020/3)

【資料のポイント】

資本金は、事業を行うための最も基本となる原資であり、純資産(自己資本)に区分され、原則として返済しなくてよい資金の額を示します。一般的に、資本金額が大きい企業は、それだけ事業に投下している資金量が多いということであるため、資本金額が小さい企業に比べて事業の安定性が高いと考えられます。

全体で見ると、資本金が3百万円未満の小規模・零細企業は、倒産確率が高いことがわかります。また業種別では、業種によって事業への投下資金が多い工事業などは、資本金額が大きい場合でも倒産確率が高くなる傾向が表れています。

集計目的: 資本金と倒産傾向の有意な相関関係の有無を業種別に検証する。

集計対象: 格付(倒産時格付)がA~F格、かつ、直近決算期の財務情報が存在、かつ、開示している資本金が空欄でない企業。

※『資本金データなし』は、資本金非開示のため金額不明を表す。

※『資本金マイナス』は、資本金が0円未満を表す。

※『0円~』は資本金が0円以上1百万円未満を、『1百万円~』は資本金が1百万円以上2百万円未満を表す。以下同様。

※『500百万円~』は、資本金が500百万円以上を表す。

Table with columns for business categories (A through T) and a total column. Rows represent capital amount ranges from '無データなし' to '500百万円~'. Each cell contains numerical values representing bankruptcy rates, with some cells highlighted in pink to indicate specific rates.